

猿田佐世さん講演会報告

アメリカの外交政策と日本の針路

～戦争を回避するために～

八木巖

5月9日、新外交イニシアティブ(ND)代表・弁護士猿田佐世さんの講演会をおこないました。冒頭聴衆の年齢層を見て、一人でも二人でも若い人をつれて来てほしい、このままでは希望が持てないと厳しい指摘をされました。

世界が見ている地図と日本が見ている地図は全く違う、その地図は日本人だけが見ている。と猿田さんはいわれました。日本人が見ているのは米中対立のなかでの日本、中国脅威の中での日本という位置から安全保障、外交を考えている。そこから中国が「敵」であり抑止力(軍事)で囲いこむ、となる。世界も同じように見ている、と考えている。しかし現実とは違う。今の中国は30年前とは違う。街はきれいだし、みんなきれいな英語で話す。技術力も経済力もちがう。中国と関係をもつことは得ることが大きい。外交はバンドン会議以来の非同盟を踏襲していて、多国間主義、国連中心主義である。トランプがベネズエラを侵略し、イスラエルのガザ攻撃を支援し、イランへの国際法違反の攻撃を行なう。グリーンランドを手に入れると言い出す。米国ははたして信頼できるか？信頼できない同盟に意味は無い。一方で中国への好感度はあがっている。

ASEANのなかの世論調査でも中国と米とどちらを選ぶかとの問いになると、中国を選ぶ国が多い。好き嫌いではなく経済が成り立たない。中国に対立しているのはフィリピンぐらいになる。ASEAN全体では総じて全方位外交である。(上の部分はゆれているが根はしっかりしているという意味で竹外交という。)中国は脅威という声は聞こえてこない。固執しているのは日本。ヨーロッパの国も仏、英、独、加、アイルランド、フィランドが昨年末から今年にかけてあいついで訪中し、習近平と会談をしている。中国とのバランスを考えている。

弱肉強食の力による平和に対し、信頼と外交に

よる対抗をすすめねばならない。外交とは信頼醸成と相互依存をふかめることであり、重層的(マルチ)な外交、社会の階層の隅々までつながれば強固になる。日米同盟について考えれば、必ずしも「同盟破棄」を言う必要はないと思う、タイは米の同盟国であっても基地は撤去させたし、柔軟に対処している。

中国と戦うのは経済力、軍事力からみて無理、日本の貿易量の四分の一は中国との貿易であり、中国なくして日本の経済はなりたたない。しかし、統計的にみると軍拡をすすめると戦争にいたること確率が高くなることをしめされていました。「ASEANオタク」を自称されている猿田さん。実例をあげた説得力が強かったです。

こんな記事をみつけました。

米世論調査機関ピュー研究所「36カ国の成人約4万2000人を対象に実施した世論調査の結果、多くの国(25カ国)で中国の好感度が米国を上回った」と発表(7月15日)。

<https://www.pewresearch.org/global/2026/07/15/people-in-many-countries-now-view-china-more-positively-than-the-u-s/>

